

29年9月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成29年 9月1日～ 29年9月11日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
9月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/9月	10月	11月
入荷動向	国産材	0.0	25.0	16.7
	外材	12.5	0.0	0.0
在庫動向	国産材	10.0	0.0	10.0
	外材	0.0	△ 25.0	△ 25.0

・ラミナの入荷動向は、国産材は9月の横ばいから10月、11月は増加に。外材は9月の増加から10月、11月は横ばいに。

・在庫動向は、国産材は9月の横ばいから10月は減少、11月は再び横ばいに。外材は9月の横ばいから10月、11月は減少に。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/9月	10月	11月
国産材	0.0	20.0	20.0
欧州材	37.5	37.5	37.5
その他	75.0	50.0	50.0

・ラミナの購入価格動向は、国産材、欧州材ともやや強含み。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・入荷動向は、スギ原木が不足している情報はありますが、比較的順調に手配できている。カラマツの入荷動向は横ばいとなっている。在庫は全体のボリュームとしては横ばいであるが、公共物件の需要が高まっており、寸法ごとのバランスが変わってきている。

・当社においては国産材は「桧」になる。引き続き全力で集荷掛けているが数量は増えず横ばい状況。国内マーケット好調により、国産材製材工場はラミナよりも付加価値の高い通常の製材品の製材に忙しい模様。外材は「米ヒバ」材という事になる。当初8月以降入荷順調と予想したが、産地カナダ内陸部で大規模な山火事が続き夏季の入山規制が長引いた為、状況大きく変わり入荷タイトな状態が継続する見通し。絶対量の減少から価格も継続して値上がりが続いている。在庫動向は、当社新製材工場が順調に立ち上がって来ており、自社製材量が大幅アップ。社外購入分は増えないが、自社製材工場から生み出される自社生産分のラミナが増え、ラミナは順調に在庫積み増しが出来ている。

「米ヒバ」は、当初8月以降ラミナ在庫は増えると予想したが、産地カナダにて大規模山火事発生。その余波で夏季の入山規制が長引き米ヒバラミナの入荷は引き続きタイトな状況が継続する。よってラミナ在庫も増えない。

(ラミナ価格動向)

・接着剤（レゾシノール）の値上がりから価格転嫁しなければならず、翌月からやや上昇する見込み。

・桧国産材は、値段が上がったから数量が集まるものでもなく、横ばい推移が続く。欧州材は、当社では取扱わないが、一般的な同業他社の情報によれば、為替円安化と欧州サプライヤーからのユーロ価格も値上がり傾向となっており、確実にラミナ価格は上がる。米ヒバは、米国住宅着工好調により米杉の代替材として米国向けに米ヒバが買われているため。昨秋から今春に掛けて産地バンクーバー周辺の天候が不順で、秋～春の出材が少なかったため。更に夏季の山火事入山規制で米ヒバ丸太が不足、よって、原木不足→ラミナ原料不足→値段大高騰となる。

29年9月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/9月	10月	11月
生産動向	国産材	8.3	25.0	8.3
	WW集成管柱	0.0	12.5	0.0
	RW集成平角	12.5	25.0	25.0
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	0.0	8.3	25.0
	WW集成管柱	12.5	12.5	12.5
	RW集成平角	12.5	25.0	25.0
	米マツ集成平角	12.5	12.5	12.5
	WW集成平角	—	—	—

・構造用集成材の生産動向は、国産材、RW集成平角3カ月連続増加。WWは9月の横ばいから10月は増加、11月は再び横ばいに。米マツ集成平角は3カ月連続横ばい推移。

・出荷動向は、国産材は9月の横ばいから10月、11月は増加に。WW集成管柱、RW集成平角、米マツ集成平角とも3カ月連続増加。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	29/9月	10月	11月
スギ集成管柱	10.0	10.0	10.0
ヒノキ集成柱	0.0	12.5	12.5
ヒノキ集成土台	0.0	16.7	16.7
カラマツ集成土台	10.0	20.0	20.0
WW集成管柱	0.0	12.5	0.0
RW集成平角	25.0	37.5	25.0
米マツ集成平角	0.0	25.0	12.5
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	33.3	33.3	33.3
カラマツ集成平角	0.0	50.0	50.0

・構造用集成材の出荷価格動向は、接着剤の値上がりから総じてやや強含み。

モニターからのコメント

(構造用集成材の荷動き)

・スギ、カラマツともに毎月フル生産となっている。出荷動向はスギ・カラマツとも横ばいとなっている。一部で荷動きが悪い地域があるが、荷動きが好調な地域もあり、全体の出荷量は横ばいである。

・国産材構造用集成材の入荷動向は、当社においては「桧集成材」となる。引き合い好調で全力生産継続中。当社新工場の一部設備が使用できるようになり、生産は順調に増えている。WW集成管柱は当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、引き続き受注好調で、通常以上の順調な生産販売が続いている模様。RW集成平角は当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、引き続き受注極めて好調で、国内工場各社はフル生産状態の模様。米マツ集成平角は当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。米ヒバ集成土台は、ラミナコスト上昇による値上げを断行。コストアップという事で顧客の米ヒバ離れは少なからずある。マーケットの状況も、ラミナ入荷状況も悲観的であり、中期的、長期的には減産も止むを得ないか。

・国産材構造用集成材の出荷動向は、引き合いは依然好調、製品出来上がり次第即出荷の状況が続く。当社新工場の設備が一部使用できるようになり、若干の出荷増に転じつつある。WW集成管柱は当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、引き続き受注好調で、通常以上の順調な生産が続いている模様。RW集成平角は当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、引き続き受注極めて好調との事で、出荷も好調、一部納期を要するとの話も聞く。秋の需要期に向けてタイト感一層強まる物と予想される。米マツ集成平角は当社では生産していないが、出荷動向増減の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたMKT故、大勢への影響は微小と考えられる。米ヒバ集成土台は、ラミナコスト上昇による値上げを断行。コストアップという事で顧客の米ヒバ離れは少なからずある。マーケットの状況も、ラミナ入荷状況も悲観的であり、中期的、長期的には減産も

(構造用集成材の出荷価格動向)

・スギ集成管柱は大手メーカーやビルダー向けの相場が動いていないため横ばいであるが、災害公共用住宅等の案件はその限りではない。カラマツ集成土台・平角は接着剤の値上りから価格転嫁しなければならぬため、出荷価格はやや上昇する。

・スギ集成管柱は当社生産品目ではないが、好調な引き合いあり、値上がり傾向が続いてきた。しかしWW集成材との競合もあり、値上がりは一服する模様。大手生産メーカーも来月価格据え置き方針を発表したと聞く。ヒノキ集成柱は当社では強い引き合いの下、全力生産が続く、値上げしたい所だが、当社新工場での増産を及び拵販を見込み、戦略的に価格維持している。ヒノキ集成土台は当社では強い引き合いの下、全力生産が続く、値上げしたい所だが、当社新工場での増産を及び拵販を見込み、戦略的に価格維持している。カラマツ集成土台は当社生産品目ではないが、こちらも絶対量不足気味で受注に対して供給が間に合っていないと聞く。WW集成管柱は当社では取扱いないが、一般的な同業他社の情報によれば、値上がり傾向で来たものの、こちらも値上げ一服感あり、3m 105角、1,900円/本前後で踊り場状態。秋需によりどのような動きするか要注意。RW集成平角はラミナコスト上昇、製品の引き合い極めて強いと言うことで、値上がり傾向。10月には製品の一つの目安価格となる60,000円台には完全に到達する。国内最大手生産者も10月60,000円/m³の案内を掛けた。米マツ集成平角はラミナコスト上昇、製品の引き合い極めて強いと言うことで、値上がり傾向。10月には製品の一つの目安価格となる60,000円台には完全に到達する。国内最大手生産者も10月60,000円/m³の案内を掛けた。米マツ集成平角は当社生産品目ではなく、マーケットでも限られた需要しかないと考えられる。全体への影響は微小と考えられる。米ヒバ土台角は原料価格の上昇も急激で、製品の値上げが追い付いていない。今後もお客様各社には値上げの依頼をしていく予定。